

平成 26 年度第 2 回高知県医薬連携及びセルフメディケーション推進協議会 議事録

日時：平成 26 年 11 月 17 日 19：00～21：00

場所：高知会館 3 階「弥生」

出席者：野村委員（高知県歯科医師会）、西森委員（高知県薬剤師会）、稲本委員（高知県薬剤師会）、宮村委員（高知県病院薬剤師会）、和田委員（高知県訪問看護ステーション連絡協議会）、豊田委員（高知市保健所）

事務局：（医事薬務課）西森課長、篠崎補佐、土居チーフ、西川主査、尾崎技師
（健康長寿政策課）山本企画監

1. 開会挨拶

医事薬務課 西森課長より開会の挨拶があった。

2. (1) 高知家健康づくり支援薬局について

事務局より、高知家健康づくり支援薬局の認定、平成 26 年度の活動状況及び平成 27 年度の取り組み（案）について説明があった。

◆質問及び回答

Q1.（委員）特定健診、がん検診の説明会を実施するとなっているが、高知家健康づくり支援薬局のうち、新規認定の薬局のみが対象なのか。

A1.（事務局）基本的には既に認定している薬局が対象である。

Q2.（委員）認定される薬局とそうでない薬局とで違い（高知家健康づくり支援薬局となることのメリット）はあるのか。

A2.（事務局）認定という形をとっているが、実際には取組みにご協力いただくことが多い。表札やピンバッジで見える化は行ったが、その他にも高知家健康づくり支援薬局にとってメリットとなる事項があればぜひご提案いただきたい。

Q3.（委員）気軽に寄れる薬局にするためにどう取り組むかでこの事業の成果が変わる。病院の門前にあって、スピード重視の薬局には行きたがらないのではないのか。

A3.（事務局）気軽に入れる薬局にするというのは特に中高年の男性を考えた時に大きな課題。アンケート、話し合い等で検討していく必要がある。

Q4.（委員）検診は日時を伝えるだけで良いのか。

A4.（事務局）健診を受ける趣旨を理解して伝えてもらうために 27 年度に説明会を行いたいと考えている。

Q5. (委員) 市は高知家健康づくり支援薬局と何かできているか。

A5. (委員) 支援薬局と一緒にできることはあると思う。

◆意見

・現在、薬学教育はすごく変わろうとしている。地域貢献や、包括的知識、セルフメディケーション等についても学んでいる。それに対して取り組む人、取組まない人で薬剤師が最後に求めるエンドポイントが違ってくる。

医薬分業では、入りやすい薬局に処方せんを見てもらおうということが初めの理念であり、現在、教育を変えようという動きになってきている。表面だけの取組となつてはいけない。高知県はしっかりやっていると言えるようにならないといけない。

・薬局に対してインセンティブが必要ではないか。こんなことをしたら良い事があるといった、薬局や市民県民に対しての具体的なメリットの説明が特に必要であると感じる。

(2) 飲み残し対策について

事務局より、薬の飲み残し状況調査の実施及び平成 27 年度の取り組み (案) について説明があった。

◆質問及び回答

Q1. (委員) 調査にあたり同意書は取っているのか。患者に理解していただけるフィードバックが必要である。前後の比較を残さないとアウトラインがしっかりしない。調査の後に「私の薬を無断で取っていった」というようなことを対象者から言われることのないよう、同意は一定必要と考える。

A1. (事務局) 倫理委員会は来年の 9 月まで承認済である。同意書は口頭のみである。

Q2. (委員) 調査のなかでモデル地区を決めるとなっているが、既に決まっているのか。

A2. (事務局) 来年度予算が固まれば協議のうえ決定していく。

Q3. (委員) 飲み残しについて直接、住民啓発の方法はないか。

A3. (委員) 地域包括ケアシステムの中で、近所の知り合い同士の声掛けという方法もある。住民同士の支え合いも必要、特に中山間では大切である。

A3. (委員) 支援薬局はそれも担っている。

◆意見

・飲み残しは医療・介護を行うにあたりすごく大切なポイントである。要介護や要支援の人は、薬を自分で飲めない。最近では、デイサービスでも薬の管理を行うようになっていく。定期循環にて配薬等のサービスもある。その辺りを含めた連携をした方がいい。

・飲み残しの取組は、薬局は従事者を通してやるだろうが、ダイレクトに一般住民に問い

かけるものはないのか。

(3) その他

◆事務局より高血圧対策、タバコ対策および働き盛りの健康づくり総合拠点について説明があった。

質問及び回答

Q1. (委員)

歯周病と生活習慣病の関係、在宅を含めた薬局共同研修が増えている。
公的な歯科検診はないのか。

A1. (委員)

そういった動きはできつつある。後期高齢者（75歳以上）に対し、広域連合とは少し話を進めていっている。

大学教育の中でも変わってきており、構図は薬学とそっくり。取組をどう行い、評価がどう出てくるかが今後の課題である。効果がどう出てくるかが難しいが、顔の見える繋がりは重要である。

県民の健康に対する意識が低いと感じている。これを上げていくことが必要である。

◆次回開催日時

平成 27 年 2 月頃予定